

■橋本進吉 国語学者。近代国語学で傑出し、所論の大部分が学界の定説に。戦時のヤミ物資に手出さず栄養失調で没。
はしもとしんきち
新体詩抄・・1882＝ 福井県敦賀郡敦賀町清明(敦賀市相生町)で、代々医業を務めた家柄で維新後も敦賀病院長などを務めた名医謙吉の長男に生まれる。

帝国大学始・1886＝ 4歳：父が死去、
姉2人も夭折したため、母一人子一人の母子家庭に育つ。

帝国憲法発布1889＝ 7歳：

足尾鉋毒始・1891＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝12歳：
日清戦争終・1895＝14歳：教育に対する配慮から母子で京都に移住し、京都府中学校に進学、
この間、伊勢湾で観海流の水泳を稽古、遠泳に合格し、看護法までマスターした。

ピアノ/国産化・1900＝18歳：卒業して、第三高等学校文科に入学、
優秀な成績を通して、
日比谷公園・1903＝21歳：卒業、言語学を志望し、東京帝国大学文科大学言語学科に入学、
伊波普猷・小倉進平と同級。

日露戦争終・1905＝23歳：
満鉄発足・・1906＝24歳：文学部トップの成績で卒業、大学院に進み、上代仮名遣発見の端緒を得、
かたわら明治大学経営の塾で、中国人留学生に日本語を教えることで、文法研究を反芻、
アラビヤ創刊・1908＝26歳：文部省国語調査委員会補助委員をつとめるなどした後、
伊藤博文暗殺1909＝27歳：東京帝国大学文科大学助手に任じられ、以後18年、国語研究室の上田万年教授のもとで研究。
韓国併合・・1910＝28歳：「極楽願往生歌」解説書を発表後、*処女論文「がてぬ・がてまし考」を発表、大家の井上通泰が新著「万葉集新考」に早速その新訓を採用して一般を驚かし、
明治天皇没・1912＝30歳：文部省文芸委員会から委嘱されて、「校本万葉集」作成に着手、
大正政変・・1913＝31歳：結婚し、大学近くの本郷内に新居を持ち、以後生涯をこの近傍で暮らす。
この間、文献資料を整備しながら、副産物として多くの書誌学的研究論文を発表、

民本主義・・1916＝34歳：上田万年と共著で初めての著作「古本節用集の研究」を出版、
ロシア革命・1917＝35歳：*{帝国文学}に画期的論文「国語仮名遣研究史上の一発見」を発表するも、理解できる学者が少なく、
本格政党内閣1918＝36歳：
べルリン条約・1919＝37歳：「吉利支丹教義の研究」初稿、
「国語学的首韻史・文法論をはじめとする諸分野について、多数の画期的な業績を挙げ、実証・理論にわたって、国語学発展の基礎を築き、多くの優秀な国語学者を養成しながら、

原敬首相暗殺1921＝39歳：
その後、講義を通じて論を深化して行き、
護憲三派圧勝1924＝42歳：後世に残る「校本万葉集」をまとめる。
治安維持法・1925＝43歳：「奈良朝語法研究の中から」。「'とほしろし'考」や、
円本時代始・1926＝44歳：「吉利支丹教義の研究」脱稿、
金融恐慌・・1927＝45歳：母が死去直後、上田万年の定年退官で、講師を飛び越えて文学部助教授となる。
共産党事件・1928＝46歳：「吉利支丹教義の研究」刊行。「契沖全集」編集に参画。
世界恐慌・・1929＝47歳：教授に就任、
国語学演習は名講義で、多くの学生に影響を及ぼした。

満州事変・・1931＝49歳：「上代の文献に存在する特殊の仮名遣と当時の語法」などを発表して、学界の定説修正に努める。
五一五事件・1932＝50歳：「国語ブームが起こり、{岩波講座・日本文学}で「国語学概論」を執筆。富山房から「新文典別記」(初級用)、
金田一京助にけしかけられ、放置しておいた「吉利支丹教義の研究」の一節を申請論文として提出し、
帝人疑獄事件1934＝52歳：{国語科学講座}で「国語法要説」を執筆。文学博士となる。
芥川直木賞始1935＝53歳：{雄山閣・国語国文学講座}で「国語学研究法」を執筆。「新文典別記」(上級用)を出版し一般に大きな影響、
二二六事件・1936＝54歳：*国文学科全体の主任教授となる。
日中戦争始・1937＝55歳：
「日本の中学校の大部分が「新文典」を教科書に採用するに至るなど、名実ともに国語学界を指導したが、

大政翼賛会・1940＝58歳：「'ことさけば'の'こと'と如の'ごと'」、
日米開戦・・1941＝59歳：
・・・・・1942＝60歳：*日本文学報国会の国文学部会長に就任させられ、
創価学会検挙1943＝61歳：停年退官。後継者として行き方の異なる時枝誠記を抜擢するも、結局裏切られ、長男が強制的に中途退学させられて入営、
年金+総武装1944＝62歳：「国語学会」が創立され、初代会長に推されるものの、ヤミ物資に手を出さず栄養失調となり、
敗戦・・・1945＝63歳：本郷の自宅周りが空襲の見舞われるなか、没した。